

## 指定管理者評価シート

事業名	札幌市民交流プラザ運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	----------------	-----------	-------------------------

### 基本情報

<b>1 施設の概要</b>			
名称	札幌市民交流プラザ	所在地	中央区北1条西1丁目
開設時期	平成30年10月	延床面積	37,332㎡
目的	文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の質の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与することを目的とする。		
事業概要	札幌文化芸術劇場等、施設の管理運営。文化芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館(教育委員会の直営)		
<b>2 指定管理者</b>			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	非公募 札幌市民交流プラザは様々な文化芸術に触れる機会の提供やアートマネジメント人材の育成などを担う施設であり、また、本市の文化芸術施設間の連携の中心拠点となり、幅広い分野の事業展開を行う札幌文化芸術交流センターは、文化芸術施策の一体的な推進を図るため、市内各文化芸術施設との一体的管理が必要である。また、スタッフの人材育成については、長期的に行っていく必要がある。さらに、設置目的に沿った運営を行っていくためには、札幌市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が必要であることから、非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

## 令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の6つの基本方針を策定した。財団統一で策定した中期経営計画に基づき、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業などを通じて、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。</p> <p>良質かつ多彩な文化芸術の提供と北海道発の文化芸術の創造</p> <p>文化芸術の水準を高める拠点としての役割 今後の文化芸術を担い、支える人々の育成 すべての人々が文化芸術を享受できる開かれた施設 あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間 安全・安心・快適な施設環境の提供</p> <p>平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。</p> <p>公開抽選による施設申込 利用月13か月前の一斉受付による申込受付 随時予約による施設申込 一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付 優先受付による施設申込 長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24か月前の受付</p> <p>特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、連続利用を原則7日以内に制限している。</p> <p>LGBTQの課題や差別について考える研修、接客・接客に関するOJTなどで、不当な差別的行為が発生しない体制づくりに取り組んだ。</p> <p>筆談具やコミュニケーション支援ボードなどを配置し、障がいのある方が利用しやすい環境整備を行った。公式ホームページにおいては、外国語ページを作成、また自動翻訳機を導入したことにより、外国人が利用しやすい情報の提供を行った。</p>	<p>第2期指定管理期間の市民交流プラザの管理・運営を実施するに当たり、札幌市民交流プラザの設置目的を実現していくための基本指針に沿って運営することができた。</p> <p>施設の空き状況等について、電話での問い合わせ対応やホームページで常時確認可能な状態とすることで、平等かつ公平な利用機会を広く市民に提供した。</p> <p>原則窓口にて先着順でのお申込みとしているが、遠方在住の方については、メール・FAXで申込を受け付けるなど、柔軟に対応した。</p>	<p>A B C D</p> <p>6つの基本方針に基づき、人々に広く開かれた文化芸術施設として、平等性・公平性を重視し、施設利用者への丁寧な対応、施設の利便性向上に努めている。</p> <p>利用者とも運営協議会で情報共有を行っており、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。</p> <p>業務上必要な研修を行い、各職員が担当業務を深く理解し、業務実施に支障が出ない状況を確保した。</p> <p>加えて、継続して省エネルギーのための取り組みを実践しており、環境に対する意識の高さが伺える。</p> <p>以上のとおり、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

## 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の徹底に努めた。

具体的には、まず照明に関して、設備員との打合せを密にし施設貸出時間外の点灯を必要最小限に抑え、全館の照明スケジュールも定期的に見直すことで徹底的に節電に努めた。毎日の貸室チェックにて、利用者退出後の空調スイッチの切り忘れを見つけることも節電に繋がっている。

また、空調(換気を含む)については、貸出時間外の施設も温湿度の一定程度の維持や感染症対策のため、稼働は必要ではあるものの、設定を間欠運転(稼働・停止を一定時間毎に繰り返す)とすることで、省エネルギーとの両立を図った。

札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進に取り組んだ。

財団施設課長による環境マネジメントシステム研修に参加し、環境意識を高めた。

管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

## 【責任者の配置、組織整備】

市民交流プラザ事業部長(館長)を施設の統括責任者として配置した。

職務内容に応じて正職員、契約職員、パート職員などを適正に配置するとともに、清掃、警備、設備などの維持管理委託業者を配置し、実効性の高い重層的な管理体制を構築した。

職員の事務分掌を作成し、業務分担を明確化した。

## 【従事者の確保・配置】

各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置を行い、安定的に運営した。

## 【人材育成】

基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。

4月・5月 新採用研修、コンプライアンス研修

5月 普通応急手当講習

10月 管理職マネジメント研修

11月 コンプライアンス研修

2月 情報セキュリティポリシー研修

3月 情報セキュリティ研修

設備員との連携を密にし、都度適切な対応を実施した。引き続き、職員の意識を高め、省エネルギーの促進に努める。

湿度計測を通じ、蒸気加湿を行う期間を短縮するなど、省エネルギーを推進した。

業務の実態に応じた人員配置や増員を行い、組織体制の適正化に努めた。

また、各従事者の能力向上および職務環境整備のために多様な研修を実施し、施設の安定的な運営体制づくりに努めた。

### 管理水準の維持向上に向けた取組

事業部連絡会議、各課全体会議、課長会議、係長会議などを定期的に開催し、施設運営上の課題解決に向けて検討・協議を行い、事業部全体の業務水準の維持向上に努めた。

財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。

また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各種伝票の起票を効率的に行っている。

事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。

情報共有の媒体を一元化することで、利用者・来館者への迅速かつ正確な対応に繋げている。

各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等は速やかに報告を受け、対処を行った。

5年ぶりに公式ホームページをリニューアルし、トップページから各利用者が求めている情報に迷わず辿り着ける利便性の高いページデザインとし、利用者の満足度を向上するとともに、自動回答ツールを導入したことによる業務の効率化とコストダウンを図った。更には、英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語に対応した翻訳ツールを導入、外国人向けに情報発信を行う体制を整えた。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。

新型コロナウイルス感染拡大防止策として休止していた無線機の貸出を再開。主催者からの貸出再開の要望に応え改善した。

第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有したほか、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

清掃、警備、設備など施設の維持管理業務や法定に基づく各種点検業務などを第三者に委託した。

館内にチケットセンターを設置し、当財団の主催公演や貸館利用者が開催する公演チケットの他、市内の文化施設で開催される公演チケットについて効果的で効率的に販売するため、市内業者に業務委託した。

広報誌「wave times+」を作成し、主催事業の紹介や公演・イベントのスケジュール、チケット販売状況などを発信している。校正等は委託業者と密に連携を取り、品質の維持・向上に努めた。

札幌文化芸術劇場は高度な舞台機構や音響・照明設備を備えていることから、それらの舞台設備を活用するため、高い専門性を持った舞台技術スタッフを配置するとともに、業務の一部を委託し、委託者と連携を図りながら業務を行った。

主催公演における劇場案内及びエスカレーター安全誘導、貸館公演におけるエスカレーター安全誘導及び劇場案内補助について、業務を効果的かつ合理的に実施するため、一括して専門的な知識または経験を有する専門事業者に委託した。

事業部内で情報共有が図られるよう多様な取組と体制を整備した。

日常的な情報共有を迅速・正確に行うことで、来館者へ適切な対応を行い、ひいては市民へのサービス向上へ繋げることができた。

各常駐委託業者と綿密な連携を図ることで、引き続き、利用者が安全・安心に利用できる施設運営を実現させることができた。

委託業者への指示命令システムを明確化し、連絡体制を整備するとともに、立会検査だけではなく、業務完了報告書により、適正に履行検査・確認を行った。

## 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (R5.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の施設の利用状況について</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> </ul>
第2回 (R5.9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和5年4月～8月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> </ul>
第3回 (R5.12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和5年4月～11月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> <li>・避難訓練コンサートの実施報告について</li> <li>・施設管理運営について</li> </ul>
第4回 (R6.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和5年4月～令和6年1月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> </ul>
<p>&lt;協議会メンバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元自治会： 中央地区町内会連合会総務部長</li> <li>・利用者： 音楽事務所代表</li> <li>・有識者： 大学教授</li> <li>・行政： 札幌市市民文化局文化部長 札幌市教育委員会 図書・情報館長</li> <li>・指定管理者： 市民交流プラザ館長</li> </ul>	

施設の運営状況や利用促進の取組について、有識者等の外部委員より専門的見地から助言を得たり、有益な情報を共有したりすることで、施設の適切な運営や利用促進、利便性の向上に繋げることができた。

## 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月9日)	(1)各施設の重点取組事項について (2)予算編成時における文化部との連携 (3)札幌市文化芸術基本計画について (4)その他
第2回 (1月12日)	(1)今年度の予算執行見込と事業実施状況について (2)次年度の予算と事業展開について (3)第4期札幌市文化芸術基本計画について (4)その他

今後の方向性について確認することができ、札幌市との相互理解が深まった。

札幌市関係部局及び利用者団体との連携、札幌市関係部局及び利用者団体や地域団体、住民などとの良好な連携体制を構築した。

## 文化団体

- ・新国立劇場、東京二期会、東京バレエ団等、国内トップクラスのオペラ・バレエ公演を実施した。
- ・北海道文化財団との共催事業として範宙遊泳を招聘した。

## 大学連携

- ・札幌大谷大学と連携し、学長によるオペラ解説動画を作成した。
- ・札幌大谷大学と連携し、主催事業の見どころ、聴きどころを解説するイベントを実施した。

## 北海道テレビ放送株式会社(HTB)

- ・hitaruオペラプロジェクト、hitaruバレエプロジェクト、Creative Art MixにおいてHTBの配信プラットフォームを活用し有料アーカイブ配信を実施した。また、令和5年度は「くるみ割り人形」配信用映像の撮影・編集をHTBに委託し、ハイビジョン映像による質の高い映像を製作することができた。

## 創成おさんぽMAP

- ・プラザ周辺地域の回遊及び活性化を目的に、プラザ近隣の飲食店、ホテル等83店舗と連携し、割引等のメンバーズ会員対象特典の提供受け、創成おさんぽMAPとして配布した。

## 札幌大通まちづくり株式会社

- ・広告協賛として、札幌大通まちづくり会社から西2丁目地下歩行空間の壁面広告枠の提供を受け、オフィシャルスポンサー制度や主催・共催事業についての広告を展開した。

## 財務(資金管理、現金の適正管理)

資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。

現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。

現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。

インボイス制度の導入に伴い、インボイス対応の請求書や領収証を作成。会計システムを用いて適格請求書発行事業者を整理し管理している。

会計事務の電算化を進めて、可能な限り現金を直接取り扱うことのない仕組みとした。

## 要望・苦情対応

要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、担当する部署及び館長とも共有したうえで、対応を行った。

利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については、関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。

また、貸館諸室の場所が分かりづらいと声をいただくことが多いため、案内表示を増やすことで場所を明確化し、利用者・来館者の利便性向上に努めた。

ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、札幌市図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。

市の関わりが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。

- ・ 管理業務に関する諸規定
- ・ 文書管理簿
- ・ 各年度の事業計画及び事業報告書
- ・ 収支予算・決算に関する帳簿
- ・ 金銭出納に関する帳簿
- ・ 物品の受払いに関する帳簿
- ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類

セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。

札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。

複数人体制での現預金の取扱や内部監査等の実施により相互牽制を行うことで、適正かつ透明性の高い資金管理を行うことができた。

要望・苦情の対応事例を速やかに内部共有することで、管理運営上の課題の発見や運営水準の向上に反映させる契機とすることができた。

業務の実施状況や利用者等の意見を適切に記録・保管することで、照会等への対応を円滑化したほか、サービス水準の維持・向上のために活用することができた。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A	B	C	D
	<p>適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>定期的に開催する役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の増進及び仕事と家庭の調和の実現(ワークライフバランスの推進)に努めた。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画(6年計画)及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(3年計画)を現在遂行中である。</p> <p>毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じて社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。</p> <p>産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種相談窓口の設置を通じて、働きやすい職場づくりに努めている。</p> <p>改正労働安全衛生法に基づき、職員の心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)及びその結果に基づく医師の面接指導を実施している。職員自身のストレスの程度を把握し、ストレスへの気付きを促すとともに、高ストレス状態にある職員が医師の面接指導を受け、必要な範囲で就業上の措置を講じることで、メンタルヘルス不調を未然に防止することに努めている。</p> <p>労働環境を向上させるため、年5日以上有給休暇の取得徹底や、業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。</p> <p>高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年(60歳)退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。</p>	<p>労働関係法令順守のため、管理職を中心に長時間労働に関する各職員の状況把握に努め、業務効率化や業務分担の見直しなどにより、時間外勤務の削減を図ることができた。また、年次有給休暇についても全職員が5日以上取得できた。</p> <p>衛生委員会では、産業医立会いによる職場巡視を実施し、職場内での事故防止・安全面の維持向上を図ることができた。</p>				<p>業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めていることは評価できる。</p> <p>36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけでなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得徹底が実現する等、それら制度が実効的に機能していると認められる。</p> <p>以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

(3)施設・設備等の維持管理業務	総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)	利用者が安全かつ快適に利用できる環境を整備し、施設に関する異変等には速やかに対応するとともに、事後の対応においても原因究明を徹底して再発防止に努め、施設の維持管理を行うことができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 市民が安全、快適に施設を利用できるよう、設備保守業者と密に連携をしながら施設維持管理に努めており、また、さっぽろ創世スクエア管理組合との連携・調整にも取り組んでいる。加えて、一時滞在マニュアルを整備することで、非常時の運営について確実に準備を進めている。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。	A	B	C	D				
A	B	C	D								
	<p>拾得物及び遺失物は、さっぽろ創世スクエア管理組合と情報共有を図り、利用者からの問い合わせに対して即時に対応できるよう努めている。なお、一定の保管期間が経過し、引き取りのない拾得物や、貴重品については最寄りの警察署または交番に引き渡し、適切な処理に努めている。</p> <p>施設の利用環境の改善と安全性向上のため、定期的な巡回や点検を行っている。特に、施設内の共用スペースにおいては多数の来館者が往来するため、防犯カメラを設置・運用することで、非常時に的確・迅速に対応ができるよう備えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止策として、職員のマスク着用、貸館窓口へのパーテーション設置、貸出備品のアルコール消毒、館内各所へのアルコール消毒液の設置、劇場主催者へのサーモカメラの貸出、諸室のCO<sub>2</sub>濃度測定とこまめな喚起を行うなど、利用者が安心安全に利用できる環境の提供に努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため削減していた施設内共用スペースの座席について、5類感染症移行に伴い座席数を復元し、利用者の利便性向上に努めた。</p> <p>緊急時の連絡体制を構築するとともに、指定管理の仕様書に記載されている内容の保険には、継続して加入している。</p> <p>札幌文化芸術劇場の高度な舞台機構や音響・照明設備を、高い専門性を持った舞台技術スタッフを配置することにより、劇場の特性を最大限に活かした公演の運営・提供に努めた。</p> <p>劇場公演における劇場案内及びエスカレーター等の安全誘導を一括して専門的な知識または経験を有する専門業者に委託し、利用者が安心して観劇できるよう努め、満足度向上に繋げた。</p> <p>施設賠償責任保険(施設所有(管理)者賠償責任保険及び昇降機危険補償、マナー包括保険、受託者賠償責任保険、自動車管理者賠償責任保険)・施設災害補償保険に加入し、利用者及び職員への適切な補償体制を整備した。また、施設賠償責任保険における賠償額は、対人・対物とも仕様書に示す基準補償額としている。 対人補償:10億円(1人5千万円) 対物補償:2千万円</p>										

施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

プラザ内の各施設(劇場、センター、諸貸室)において、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。また、備付備品や貸出備品についても、定期的に点検を行い、常に利用者が最良の状態で使用できるよう維持・管理を行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施していた、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒・換気について、5類感染症移行に伴い、対策の見直しを行ったうえで必要な消毒・換気を継続した。

施設などの修繕は、市民利用に支障が生じないよう、緊急度や破損状況を考慮して、加圧給水ポンプユニット圧力タンクの交換、シャッター開閉機・非常電源装置用バッテリーの交換、劇場内開放型スプリンクラー設備の修繕、照明制御装置予防保全などを実施した。

施設設備については、日常点検をはじめ、不具合が発生した際は早期発見・対応が可能なように設備保守の常駐委託事業者と密に連携を図った。

施設への搬出入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営を行い、警備員との連絡を密にして駐車場の利用者が安全、かつ円滑に駐車できるように努めた。なお、共用部(緑化等)はさっぽろ創世スクエアの管理組合が適切に管理している。

#### 防災

令和5年6月に職員を対象とした座学研修を行い、防災に関する基本的な知識、消火器の使用方法、避難経路についての講習を行った。同年10月には、昨年度より再開した「避難訓練コンサート」を開催し、実際に来場者を動員し避難誘導をすることで、災害発生時の行動について訓練を行った。

札幌市民交流プラザ危機管理規程に基づき、危機管理マニュアルを策定している。危機が発生した場合の行動及び責任者等を定めることで、一般利用者及び勤務する職員、あるいは当該施設等に重大な被害が及ぶ恐れがある様々な危機を想定し、事象が発生した場合における被害及び混乱を最小限に食い止め、来館者、職員及び施設の安全を確保することを目的としている。また、安全品質向上のため日々見直し改訂している。

「札幌都心地域帰宅困難者対策ガイドライン」に基づき、札幌市が定める一時滞在施設として、札幌市民交流プラザが果たすべき役割や開設準備、運営体制などを明確にすることで、災害発災(主として震度5弱以上の地震発生)後の迅速な一時滞在施設の開設と円滑な運営を実現するため、一時滞在施設マニュアルを策定した。

利用者が最良の状態で使用できるよう、維持・管理を徹底して行った。

実際に来場者の避難誘導を行う「避難訓練コンサート」を通して、座学で得た知識の定着が図られ、具体的な動きを再確認できた。

## (4)事業の計画・実施業務

## 札幌文化芸術劇場に関する事業

令和5年3月末、文化庁が実施する助成金「舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)」に当館の提案した「次世代創造型劇場による魅力的地域文化推進事業」が選ばれ、開館から5年目にして北海道から初めての採択となった(全国の主要な国公立文化施設2,140館のうち本事業に採択されたのは12施設のみ)。  
令和5年度は、5年間の事業計画1年目として、以下のとおり着実に事業の成果を挙げる事ができた。

## 創造事業

hitaruを「創造の場」として地元で活躍する様々な芸術団体との連携のもと札幌発の実演芸術公演を展開し、質の高い芸術文化に触れる機会を市民に提供した。令和5年度は、地元のバレエ団体、実演芸術家などの協力を得てhitaruを舞台としたバレエを創造・発信する「hitaruバレエプロジェクト」の第1回として、「くるみ割り人形」(全幕)を上演し、全3公演チケット完売となった。また、出演者からスタッフまで、全メンバー道内在住の人材を起用し、約1年間の制作期間により創り上げた「Creative Art Mix」をクリエイティブスタジオで開催した。さらに、令和6年度に開催する第2回hitaruオペラプロジェクトモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」公演に向けて、キャストオーディション及びコレペティートル研修を実施した。

## ○hitaruバレエプロジェクト「くるみ割り人形」(全幕)【自主事業】

期日:令和5年12月9日(土)、10日(日)

総入場者数:5,646人

## 関連事業

・札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業 札幌大谷大学「アートプログラム2023」第2回 バレエ「くるみ割り人形」見どころ・聴きどころ

期日:令和5年11月16日(木)

入場者数:108人

・「くるみ割り人形」特別フェア

期日:令和5年11月28日(火)～12月7日(木)

・「くるみ割り人形」(全幕)有料アーカイブ配信

期日:令和5年12月23日(土)～令和6年2月29日(木)

総視聴人数:738人

○Creative Art Mix Vol.2～Classical Jewels～

期日:令和6年3月9日(土)、10日(日)

総入場者数:435人

## 関連事業

・Creative Art Mix ダンスワークショップ Vol.2 2023

期日:令和5年7月31日(月)～8月2日(水)

総入場者数:77人

hitaruオペラプロジェクト モーツァルト作曲「フィガロの結婚」有料アーカイブ配信【自主事業】

期日:令和5年4月28日(金)～7月27日(木)

総視聴人数:100人

○hitaruオペラプロジェクト モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」【自主事業】

## 関連事業

・キャストオーディション

期日:第1次審査 令和5年12月26日(火)、第2次審査 令和6年2月17日(土)、18日(日)

応募者数:60人

・コレペティートル研修

期日:令和6年3月23日(土)、24日(日)

受講者数:3人、総聴講者数:62人

「くるみ割り人形」では地元の人材による創造を念頭に置き、札幌ならではの作品を創り上げた。クリスマスを舞台にした名作で、北国・札幌の風土と親和性の高い「くるみ割り人形」を取り上げ、地元の演出家、若手指導者、ダンサー、オーケストラにより、当市にふさわしい新制作バレエの上演を実現した。地元人材に加え、パリ・オペラ座のエトワールをはじめとする国内外のトップダンサーをゲストに迎え、ダンス専門誌に当該公演の特集が組まれるなど、道外からも大きな注目を得ることができた。当館主催公演としては歴代最高の入場者数を達成。さらにHTB運営のプラットフォーム「オンライン劇場」を活用した有料アーカイブ配信では、同プラットフォームでの歴代ナンバーワン視聴数を達成した。また、札幌大谷大学学長とくるみ割り人形のゲストダンサーによるレクチャーなど普及啓発にかかる関連事業も併せて実施した。  
「Creative Art Mix」では、新たにソプラノ歌手を迎え新曲を多数取り入れた他、舞台の3方向を客席が取り囲み、間近で出演者や映像を楽しめる電光ステージで多様なアートのコラボレーションを披露した。

A	B	C	D
創造事業	では、「hitaru	バレエプロ	ジェクト「くるみ
	割り人形」公演	を、道内在	住の人材を
	起用して実施	し、北海道	発の高品質
	な実演芸術	公演を実現	した。また、
	「Creative	Art Mix」で	は、ジャンル
	を超えたコ	ラボレーシ	ョンにより、
	市民が新た	な文化芸術	に触れる機
	会を創出し		

## 【中期経営計画取組状況】

## 社会包摂を意識した運営:

hitaruフェア(事業紹介展示)の実施(くるみ・アートミックス)、U25料金の設定(全有料公演)、国際交流の実施(くるみ)、HP多言語対応(全事業)  
文化庁主催バリアフリー研修への職員派遣、アンケート特典配布による回収率アップ施策の実施(くるみ・アートミックス)、レセプションとの成果検証会(くるみ)

## オンライン技術の効果的な活用:

LINEによる情報発信(くるみ)、iPadによるRH運営(くるみ)、Google Work SpaceによるRH出欠管理(くるみ)、GoProとYouTubeを活用したRH動画配信(くるみ)、YouTubeによる出演者メッセージの公開(くるみ)、有料アーカイブ配信(くるみ、フィガロ、アートミックス)、notionによる現場管理(アートミックス)

## 子どもたちの芸術文化活動の充実:

子役の起用(くるみ)、来場者年齢制限の緩和(くるみ)、ダンスWS年齢制限無に設定(アートミックス)、キッズクッションの試験導入(くるみ)

## 若手アーティスト等の活動支援:

バレエミストレスの育成(くるみ)、コレペティートルの育成(オペラ)、若手音楽アーティスト・舞踊家・映像アーティストの育成(アートミックス)、制作スタッフによる地元バレエ公演の視察10回(くるみ)

## 施設間連携のさらなる強化:

芸森バレエセミナーへの職員派遣(視察)、公共他施設スタッフ育成プログラムのホスト(地域創造ステージラボ)

## 他分野との連携の推進:

学識者による制作協力(アートミックス)、札幌市図書・情報館での展示(くるみ)、大谷大学との連携(くるみ)、

モリヒコとの連携による国際交流レセプションの実施(くるみ)、HTBとの連携による配信の実施(くるみ、フィガロ、アートミックス)

創造事業については両公演ともにU25料金を設定し、チケット購入者の21.5%がU25チケットで来場した。また、HTBとの連携により有料アーカイブ配信を実施し、多様な鑑賞スタイルのニーズに対応することができた。加えて、長年にわたりバレエセミナーを運営している芸術の森事業部と連携して研修を行い、職員のスキルアップの機会を設けた。

**鑑賞事業**

多面舞台と最新の舞台機構を生かし、世界水準のバレエ、ダンスなど本格的な舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で市民に提供した。また、親しみやすい内容の公演を低廉な入場料で開催し、幅広い層の市民に実演芸術の魅力を伝えた。

○新国立劇場オペラ リヒャルト・シュトラウス「サロメ」【全1幕/ドイツ語上演/日本語字幕付】

期日：令和5年6月11日(日)、13日(火)

総入場者数：1,885人

**関連事業**

・札幌大谷大学学長によるレクチャー動画の配信

○札幌市民交流プラザ開館5周年事業 2023グランドオペラフェスティバル in Japan シュトゥットガルト州立歌劇場との提携公演 東京二期会オペラ ジュゼッペ・ヴェルディ『ドン・カルロ』 オペラ全5幕(イタリア語5幕版)日本語字幕付原語(イタリア語)上演 新制作

期日：令和5年10月7日(土)、8日(日)

総入場者数：1,145人

**関連事業**

・札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業 札幌大谷大学「アートプログラム2023」第1回 オペラ「サロメ」見どころ・聴きどころ

期日：令和5年9月7日(木)

入場者数：82人

**hitaru のひととき**

・「CLASSIC & JAZZ SPECIAL NIGHT CONCERT」

期日：令和5年7月8日(土)

入場者数：663人

・「ひろしま神楽」

期日：令和5年10月29日(日)

入場者数：979人

・「パット・メセニー ドリーム・ボックス・ソロ・ツアー」

期日：令和6年1月14日(日)

入場者数：1,789人

**【中期経営計画取組状況】****社会包摂を意識した運営：**

hitaruフェア(事業紹介展示)の実施(パット・メセニー)、さっぽろ芸術文化研究所との連携による外国人誘致(神楽)、U25料金の設定(全有料公演)、HP多言語対応(全事業)、英語チラシ作成(神楽)

**オンライン技術の効果的な活用：**

WiFiトランシーバの試行運用(パット・メセニー)、出演者インタビュー等・関連映像の配信(ほぼ全事業)

**子どもたちの芸術文化活動の充実：**

来場者年齢制限の緩和(神楽)、子ども向け解説動画の公開(神楽)

**施設間連携のさらなる強化：**

サッポロ・シティ・ジャズとの広報協力(CLASSIC & JAZZ、パット・メセニー)、Kitaraとの広報協力(サロメ、ドン・カルロ)

**他分野との連携の推進：**

他自治体(安芸高田市)との連携(神楽)

新国立劇場と連携し、後期ロマン派を代表するR.シュトラウスの傑作「サロメ」を上演し、国内トップクラスのオペラを鑑賞する機会を市民に提供した。

また、札幌市民交流プラザ開館5周年事業として、東京二期会とシュトゥットガルト州立歌劇場と提携し、「オペラ王」の異名を持つヴェルディの傑作「ドン・カルロ」を上演した。

低料金で気軽に実演芸術に触れてもらうことを目的とした「hitaruのひととき」シリーズでは、第一線で活躍するヴァイオリニストの木嶋真優、ジャズピアニストの大林武司を迎えたコンサート、多彩な演出や豊かな演劇性を持つ伝統芸能「ひろしま神楽」の公演、世界のトップジャズギタリストであるパット・メセニーのコンサートなど、これまで実演芸術に親しむ機会が少なかった方々が劇場に足を運ぶきっかけとなる公演を実施することができた。

鑑賞事業においても、全公演でU25チケットを設定し、若年層も来場しやすい価格設定に努めた。

「hitaruのひととき」シリーズでのジャズ公演(CLASSIC & JAZZ、パットメセニー公演)では、芸術の森事業部 サッポロ・シティ・ジャズと広報協力をを行い、ジャズファン層に広く事業を告知することができた。

鑑賞事業では、多面舞台を活かし、札幌では開催が困難だった大規模公演を誘致し、国内外の世界水準の舞台芸術鑑賞の場を市民に提供できた。また、「hitaruのひととき」シリーズを低料金で実施し、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。

神楽公演では、既存の客層に加えてインバウンドや留学生にもアプローチするため英語チラシを作成・配布。外国の方がグループで来場されるなど効果がみられた。また、hitaruのひとき公演としては初めて未就学児入場可とし、アニメ動画で神楽の紹介を行うなど、若年層にも親しみをもってもらえるよう工夫を行った。アンケート回答者の20%を10代以下が占めており、他公演と比較しても大変高い割合となった。加えて、安芸高田市との連携によりホワイエにて物産展を開催し好評を得た。

作品紹介や歴史的背景などを動画で紹介する「オンライン・レクチャー」を展開するなど、オンライン技術も積極的に活用した。特に札幌大谷大学長による「サロメ」公演や神楽についての解説動画は反響が大きく、再生数は各動画2,600回を超えた。劇場での鑑賞体験をより深めていただくための有効な手段と考えられるため、今後も継続していく。

## 共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった魅力ある大規模公演等の誘致に向けた取り組みを進めた。

アニメ化や実写映画化もされた人気コミック「キングダム」の初舞台、開館より継続して開催しているさっぽろ落語まつりの第四回公演、1993年に日本初上陸して以降各地で好評を博してきた劇団四季の代表的ミュージカル『クレイジー・フォー・ユー』、1997年にスタートした歴史あるコンサートの第26回公演のHTB ジルベスターコンサート、累計発行部数1億2,000万部を誇る荒木飛呂彦の大人気コミックシリーズ「ジョジョの奇妙な冒険」を初のミュージカルを共催した。

## 舞台「キングダム」

期日：令和5年5月6日(土)～11日(木)

総入場者数：11,610人

## 第四回さっぽろ落語まつり

期日：令和5年5月26日(金)～28日(日)

総入場者数：5,233人

## ミュージカル『クレイジー・フォー・ユー』

期日：令和5年10月26日(木)、27日(金)

総入場者数：3,809人

## 2023 HTB ジルベスターコンサート

期日：令和5年12月31日(日)

総入場者数：1,437人

## ミュージカル「ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド」

期日：令和6年3月26日(火)～30日(土)

総入場者数：7,974人

人気漫画作品を原作とした舞台「キングダム」、ミュージカル「ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド」や、劇団四季ミュージカル『クレイジー・フォー・ユー』など、これまで札幌では上演される機会のない大型舞台公演を財団が共催することで、子どもたちをはじめ、幅広い世代が上質で多彩な舞台作品に触れることのできる鑑賞機会を提供した。

普及・育成事業  
先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化の提供と、教育的価値の高い事業を展開した。

青少年向けバレエ鑑賞事業(鑑賞事業・配信事業)  
鑑賞事業

期日:令和5年9月25日(月)

入場者数:1,906人(札幌市内中学校20校 他)

配信事業

期日:令和5年11月1日(水)~11月30日(木)

視聴人数:312人(札幌市内中学校7校)

クリエイティブスタジオ事業

・シネマシリーズ6 映画へと導く映画(岨手由貴子監督)

期日:令和5年11月25日(土)

入場者数:133人

・シネマシリーズ7 映画へと導く映画(三宅唱監督)

期日:令和6年1月27日(土)

入場者数:151人

・青年団「ソウル市民」作・演出:平田オリザ

期日:令和5年5月13日(土)、14日(日)

総入場者数:308人

・範宙遊泳 パナナの花は食べられる

期日:令和5年9月22日(金)、23日(土・祝)

総入場者数:319人

関連事業

・平田オリザによる青年団「ソウル市民」プレクチャー

期日:令和5年5月10日(水)

入場者数:77人

○札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業

・アートプログラム2023 第1回オペラ「ドン・カルロ」見どころ・聴きどころ

期日:令和5年9月7日(木)

入場者数:82人

・アートプログラム2023 第2回バレエ「くみ割り人形」見どころ・聴きどころ

期日:令和5年11月16日(木)

入場者数:108人

【中期経営計画取組状況】

社会包摂を意識した運営:

障がい者クラス・聾学校、夜間中学校(星友館中)等の受け入れ(青少年)、U25料金の設定(ソウル)、HP多言語対応(全事業)

オンライン技術の効果的な活用:

配信事業の実施(青少年)、演出家による見どころ紹介動画の公開(ソウル)講演のアーカイブ映像の公開(シネマ)

子どもたちの芸術文化活動の充実:

事前学習資料の作成(青少年)、指導要領の作成(青少年)、全来場者へのアンケート実施(青少年)、中高生向け無料レクチャー(ソウル)

他分野との連携の推進:

市教委との連携(青少年)、大谷大学との連携(アートプログラム)

青少年が豊かな人間性を育むことを目的として、国内トップクラスの東京バレエ団の公演に市内中学2年生を無料招待する「青少年向けバレエ鑑賞事業」を札幌市教育委員会と連携して実施し、約2,000名の学生が劇場で実際のバレエを鑑賞した。また、応募のあった中学校に過去の鑑賞事業のアーカイブ映像及び作品内容の解説、劇場の紹介等を含む映像教材を配信し、鑑賞する機会を提供した。

「クリエイティブスタジオ事業」では、話題の映画監督が影響を受けた映画を紹介する「映画へと導く映画」、現代口語演劇の出発点となった1989年初演の平田オリザの代表作「ソウル市民」の上演、山本卓卓作・演出による第66回岸田國士戯曲賞受賞作である範宙遊泳「パナナの花は食べられる」の上演等、クリエイティブスタジオを会場に市民の多様なニーズに応える事業を実施した。

関連事業として平田オリザ氏を講師とした中高生向けの現代口語演劇についての無料レクチャーや、札幌大谷大学との連携により主催事業公演(オペラ・バレエ)わかりやすいレクチャーを開催した。

また、平田オリザ氏による作品解説動画、シネマシリーズ出演の映画監督による特別講演のアーカイブ映像の公開など、普及・育成事業においてもオンライン技術を活用した取り組みを実施し、広く事業を紹介することができた。

普及・育成事業では、「青少年向けバレエ事業」を実施し、若い世代の文化芸術鑑賞機会を創出し、裾野拡大に寄与する取組を行った。また、札幌大谷大学と連携し、オペラ・ミュージカルの内容を解説する「アートプログラム2023」を実施することで、主催事業の広報につながった。

## 交流事業

札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオ、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につながる事業を実施した。

## ○PLAZA FESTIVAL 2023

- ・東京二期会オペラ「ドン・カルロ」
- 期日：令和5年10月7日(土)、8日(日)
- 総入場者数：1,145人
- ・札幌芸術の森クラフトキャラバンワークショップ
- ・MORIHICO.マルシェ・ドゥ・グルニエ×プラザ・マルシェ
- ・札幌国際芸術祭2024の巡り方、楽しみ方
- ・北日本アートセンターミーティング
- ・SCARTS 5th Anniversary Party
- ・絵本で楽しむ「くるみ割り人形」の世界
- ・札幌市図書・情報館5周年企画

## 【中期経営計画取組状況】

社会包摂を意識した運営：  
U25料金の設定(全有料公演)、HP多言語対応(全事業)

## オンライン技術の効果的な活用：

出演歌手による見どころ紹介動画の公開(ドン・カルロ)  
北日本アートセンター3館との公開ミーティング・オンライン配信(北日本)

## 子どもたちの芸術文化活動の充実：

家族で一緒に楽しめる絵本の読み聞かせとピアノ演奏(くるみ割り人形)

## 施設間連携のさらなる強化：

Kitaraとの広報協力(ドン・カルロ)  
芸術の森クラフト工房による、誰でも気軽に参加できるワークショップ(クラフトキャラバン)

## 他分野との連携の推進：

全道各地のアーティストや青果物・菓子等の生産者が出店するマルシェ(プラザ・マルシェ)

札幌市民交流プラザのオープン5周年に際し、全館を用いた交流事業「PLAZA FESTIVAL 2023」を開催した。劇場では東京二期会とシュトゥットガルト州立歌劇場との連携によりヴェルディのオペラ「ドン・カルロ」公演を開催。出演者による公演見どころ紹介動画の公開など、オンラインを活用した取り組みを実施した。他、U25料金を設定し若年層も来場しやすい価格設定とした。また、大学と連携しオペラの見どころを紹介する事業を別途企画し新たな観客の獲得を目指した。

SCARTSでは、開館5周年を市民とともに祝うSCARTSパーティの開催や、他都市のアートセンターや研究者からの事例をもとに各地のスタッフと対話した北日本アートセンターミーティングのほか、クラフトキャラバンでの財団内連携・モリヒコとの他分野連携も引き続き実施した。

交流事業では、「PLAZA FESTIVAL 2023」を実施し、劇場、札幌市図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。

## 舞台技術向上に向けた取組

全道の創造型劇場の中核として、舞台技術者の技術・技能の向上や知識・経験の共有を図るため、舞台技術者、劇場職員、舞台技術専攻の学生を対象とした舞台技術セミナーを開催した。

## 第4回hitaru舞台技術セミナー

- 知らないこと、それがキケンです -

期日：令和6年1月30日(火)、31日(水)

参加者数：173人

また、高度な舞台機構や音響・照明設備を活用できる本劇場の舞台技術スタッフが他の劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等と連携・協力し、地域の文化芸術の水準を高めるための取組として、舞台監督等の技術協力支援を行った。

札幌舞踊会 本部お楽しみ会 支部・カルチャー発表会 会場：札幌市民ホール

WE LOVE BALLET Golden Week Concert 2023 会場：札幌市民ホール

DANCE STUDIO LoRe 発表会「BON VOYAGE vol.6」 会場：札幌サンプラザコンサートホール

アトリエ Noa 第6回発表会 会場：幕別百年記念ホール

小林絹恵バレエスタジオ 第6回定期発表会 会場：札幌市民ホール

小樽市民会館 開館60周年記念バレエくるみ割り人形全幕公演 会場：小樽市民会館

アンジュバレエスタジオ30周年記念公演 会場：帯広市民文化ホール 大ホール

第64回子ども舞踊祭 会場：札幌市民ホール

例年開催している舞台技術セミナーを、本年度は初めて道外から講師を招聘して開催した。舞台技術者・劇場職員の技術・技能の向上はもちろん、次世代を担う舞台技術専攻の学生の育成にも寄与することができた。

また、市内・道内の文化芸術団体の公演実施に対して舞台技術の協力支援を行うことで、地域の文化芸術の水準を高める一助とすることができた。

同時に、子どもや若者の発表の場でもある公演を支援することで、次世代を担う人々の育成・支援にも寄与することができた。

舞台技術向上に向けた取組では、hitaruにおいて舞台技術セミナーを実施し、市内道内の舞台技術者の技能向上に寄与している。

また、地域の文化芸術団体への技術協力支援により、舞台芸術の技術水準の向上に努めている。

## 札幌文化芸術交流センターに関する事業

文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業  
誰もが気軽に文化芸術に触れられる場や機会の創出を通して、  
都心部ににぎわいを生み出す事業を展開した。

また、地元アーティストや他分野との連携などにより、札幌なら  
では特徴的な事業を構築し、地域の魅力づくりに寄与すると  
ともに、SCARTSの認知度向上に繋がった。

## 【SCARTSクリエイションプロジェクト(リサーチ)】

## 【SCARTSメディアアーツシリーズ】

SCARTS×CoSTEP研究会

「みんなで考えるアート&サイエンスワークショップ」

期日：令和5年10月28日(土)

参加者数：19人

SCARTS×CoSTEPツアー & ワークショップ

「高校生と考えるアート&サイエンス」

期日：令和6年2月10日(土)

参加者数：20人

## 【SCARTS連携事業】

大学連携コンサート

・大学連携コンサート 北海道教育大学岩見沢校

「クラシックとジャズの出会い～カブースチンとアメリカ」

期日：令和5年8月21日(月)、8月22日(火)

総入場者数：133人

・大学連携コンサート 札幌大谷大学

「ピアノジョイントコンサート 情熱の鼓動」

期日：令和5年10月31日(火)

総入場者数：65人

第52回SAPPOROぶんだんきょうフェスティバル

期日：令和5年8月18日(金)～20日(日)

総入場者数：3,015人

SCARTS×さっぽろ天神山アートスタジオ「天神山、まちにいく。」

期日：令和5年12月3日(日)

総入場者数：40人

さっぽろアートステージ2023 ART STREET

・キッズアートフェス

期日：令和5年11月11日(土)～23日(木・祝)

総入場者数：1,159人

<関連プログラム>

・ワークショップ 「君の写真にアートで動きを吹き込もう！」

・ワークショップ 「小さな『冬囲い』をつくろう！」

・ワークショップ 「アニメーションの原点を体験しよう！」

・University Student ART Competition

・ボードレスアート作品展

SCARTSメディア  
アーツシリーズで  
は、現役の教員と  
高校生を迎えて  
ワークショップを  
実施。近年、高  
校教育の現場で  
取り組まれている  
「探究学習」「  
STEAM教育」に  
着目し、アート  
やサイエンスの  
視点と探究学習  
の接続の可能性  
について考える  
機会となった。  
また、大学や専  
門機関との連携  
による先進的で  
実験性が高い事  
業を展開すること  
で、SCARTSの  
認知度を高め、  
次世代を担う若  
年層が現代の表  
現に対する関心  
をもつきっかけ  
をつくること  
ができた。

大学との連  
携により、  
SCARTSに  
おけるアート  
を介した分  
野横断的な  
ワークショップ  
を実施して  
おり、若年層  
がアートにつ  
いて深く考え  
る機会を創  
出している。  
また、「大学  
連携コンサ  
ート」を実  
施し、市民が  
気軽に文化  
芸術に触れ  
る機会を創  
出した。  
SIAF2024と  
の連携や、  
教育文化会  
館、彫刻美  
術館等他施  
設との連携  
も積極的  
に行っており  
、本市文化  
芸術の集積  
地としての  
役割を果た  
している。

## NoMaps2023

期日:令和5年9月13日(水)~17日(日)

総入場者数:1,655人

第4回アートボランティアウィーク2023@SCARTS

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

札幌市図書・情報館セミナー

期日:令和5年5月18日(木)~令和6年3月16日(土)

総入場者数:745人

・女性のための起業のヒント

・“もしも、あなたが…”

～がんを知らないとジャッジもチョイスもできない～”

・“つながりを仕事に～フィリピンから学ぶ起業のノウハウ～”

・「サイエンスコミュニケーションとアートを融合する」

～札幌から始まるアートでつなぐサイエンス～

・好きを仕事に生きること

～現役選手と社長に聞く地域スポーツの魅力～

・「社会貢献」で起業するソーシャルビジネスセミナー

・劇団イナダ組×法テラス

法テラス劇場「トラブル回避のための選択肢」

～その「悩み」は、「微笑み」に変わった。～

・夜パフェ専門店とショートケーキ缶ができるまで・できたあと

・いっぱいのミルクから広がる、未来へのチカラ

～町村農場100年、持続可能な経営戦略～

・FirstStep!初めての創業セミナー

～図書・情報館からはじまる起業準備～

・ひとのふんどしでのすもうのとりかた

～自分で作(や)らないクリエイティブ～

・起業実現にむけた上手な相談のしかた(さっぽろ産業振興財団)

・マンガがつくる、札幌のミライ

彫美連続講座2023

期日:令和5年5月27日(土)、7月22日(土)、11月25日(土)

総受講者数:249人

札幌市教育文化会館×札幌文化芸術交流センター

SCARTS×札幌市図書・情報館 三館連携事業能楽展2023

白鏡～明滅の虚空～ / 黒戯～幽間の隠者～

期日:令和5年8月3日(木)~7日(月)

総入場者数:2,004人

## SCARTS連携事業

では、連携協定を締結する大学や文化団体等、当財団が管理する他施設と連携し、SCARTSをハブとしてさまざまな文化芸術活動をつなげ、それぞれの専門性を活かした事業を展開した。ぶんだんきょうフェスティバルやアートステージでは、作品展示やワークショップ参加を通して、子どもたちの感性や想像力を育む場を設けることができた。

## 【SCARTSパブリックリレーションズ】

西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト

・西2丁目地下歩道映像上映

期日:令和5年4月1日(土)~令和6年3月31日(日)

・空族 台湾先遣隊調査報告

(ILHA FORMOSA) 特別上映&amp;アーティストトーク

期日:令和5年6月9日(金)~13日(火)&lt;上映&gt;

6月10日(土)17:00~18:30&lt;トーク&gt;

総入場者数:213人&lt;上映会&gt;、55人&lt;トーク&gt;

&lt;関連プログラム&gt;

・空族(典座 - TENZO - )上映&amp;富田克也監督トーク

期日:令和5年6月9日(金)18:20~19:55

プラザフェスティバル2023

・まもなく初の冬開催!札幌国際芸術祭2024のめぐり方、楽しみ方

ディレクター&amp;キュレーターズトーク

期日:令和5年10月6日(金)19:00~20:30

総入場者数:66人

・北日本アートセンターミーティング

期日:令和5年10月7日(土)16:00~18:00

総入場者数:36人

・スカーツパーティ

期日:令和5年10月8日(日)

総入場者数:151人

・絵本の読み聞かせ「くるみわり人形」の世界

期日:令和5年10月9日(月・祝)14:00~14:45

総入場者数:53人

・札幌芸術の森クラフトキャラバン 森のわくわくワークショップ

期日:令和5年10月7日(土)~8日(日)

総参加者数:54人

SCARTSアニュアルレポート

SCARTSパブリックリレーションズでは、札幌市民交流プラザへの主要な入口となっている西2丁目地下歩道に設置された4面スクリーンを活用し、国内外の著名な映像作家による新作映像を上映することで、市民が多彩な映像表現に日常的に触れる機会を創出し、新しい文化芸術の表現に出会う場の醸成に貢献した。また、プラザフェスティバルにおいて、SCARTS開館5周年を市民とともに祝うSCARTSパーティの開催や、他都市のアートセンターや研究者からの事例をもとに各地のスタッフと対話した北日本アートセンターミーティングのほか、クラフトキャラバンでの財団内連携も引き続き実施した。

【SIAF2024 連携事業】

札幌国際芸術祭2024「SIAF2024ビジターセンター@SCARTS」

・総合案内

・図書室

・研究室

・展示室

「INTO SIGHT at SIAF2024 - リアルとバーチャルが解け合う世界へ -」

・多目的室

期日:令和6年1月20日(土)~2月25日(日)

総入場者数:77,044人

<関連プログラム>

・ビジターセンターオープニングトーク

「SIAF2024ビジターセンターへようこそ」

期日:令和6年1月20日(土)

総入場者数:26人

・札幌アートコミュニケーターズ「『凹みスタディ』のスタディ2024」

期日:令和6年1月28日(日)、2月18日(日)

総入場者数:20人

・SNZ「座談会と相談会(話をするよ!話を聞くよ!)」

期日:令和6年1月29日(月)

総入場者数:70人

・ビジターセンタートーク「都市と自然をめぐる」

期日:令和6年2月4日(日)

総入場者数:50人

・ビジターセンタートーク「アーティストが語る、札幌の今」

期日:令和6年2月23日(金・祝)

総入場者数:50人

文化芸術活動支援事業・文化芸術に関する調査研究事業  
 市民やアーティスト等の活動活性化やキャリアアップへの支援として、文化芸術情報を収集・発信できる場を提供するとともに、文化芸術に関する課題や悩みなどの相談も受け付けた。  
 また、文化芸術に関わる方々を対象とした講座や相談会等も開催し、札幌で文化芸術活動が行いやすくなるような環境づくり、意欲的な企画を公募により実施する企画公募事業、札幌の文化芸術振興に寄与する質の高い活動を支援する助成金交付事業など、幅広い層を対象に様々な形でのサポートを行った。  
 さらに、調査研究の一環として、SCARTSの取り組みを学術的な場に集う関係者・研究者へPRし、意見交換を行う日本アートマネジメント学会全国大会において、SCARTSサポート事業を軸に、SCARTSが有する中間支援機能について実践報告を行った。

〔SCARTSサポート事業〕

SCARTS相談サービス

SCARTSラーニングプログラム

・「助成金はじめの一步」レクチャー & 相談会

期日：令和5年7月28日(金)

総参加者数：54人 <レクチャー>、11組 <相談会>

公募企画事業

・SCARTS企画公募2024

・岸田理生アバンギャルドフェスティバル in Sapporo

岸田理生没後20年記念公演「恋の激情・火學お七」

期日：令和5年7月7日(金)～9日(日)

総入場者数：392人

<関連プログラム>

・演劇ワークショップ講座

・シロとメロの暮らし展

期日：令和5年7月8日(土)～17日(月・祝)

総入場者数：1,098人

<関連プログラム>

・不用品がよみがえるワークショップ シルクスクリーン絵付け体験

・弾き語りライブ

・亘久一本店創業百周年記念展

「亘久100年～まちとアートと家族の物語」

期日：令和5年8月31日(木)～9月10日(日)

総入場者数：3,360人

<関連プログラム>

・オープニングイベント 仮装パフォーマンス

・オープニングイベント 出展作家によるアーティストトーク

・トークイベント 札幌(まち)と亘久一の100年物語

・横須賀令子アニメーション個展 「波と風のもののけたち」

期日：令和5年9月6日(水)～11日(月)

総入場者数：618人

インフォメーションコーナーにおけるイベント情報や、公募・助成金情報等の文化芸術情報の収集・発信によって、市民活動の活性化やアーティストのキャリアアップ等の支援へとつなげた。  
 加えて、通常の相談サービスにおける相談対応だけでなく、事業に関連した課題や相談に関するレクチャー、個別相談会の開催、19件の文化芸術活動への助成金交付等、多様な市民のニーズに添うサポートを形にすることで、札幌での文化芸術活動が実施しやすくなるような環境づくりにつなげた。  
 また、これらのサポート事業について、全国の専門家等から意見を聴取する場へ出向き実践報告を行うことによって、SCARTSの中間支援機能を対外的に紹介し、SCARTSが取り組む事業の認知度向上に貢献した。

「SCARTS相談サービス」については、文化芸術団体やアーティスト等が気軽に相談ができる場となっており、助成金事業と一体で取り組むことでより実効性のある相談機関となっている。また、公募企画事業によって、地域の活性化にフォーカスしたアーティストや文化芸術団体への活動機会を与えている。  
 以上により、本市の要求水準を超える事業を行っている。

札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業(自主事業)

< 令和5年度助成金交付 >

特別助成事業1件、一般助成事業19件 総額約550万円

・令和5年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS  
文化芸術振興助成金交付事業 助成金交付決定説明会・交流会  
期日:令和5年4月27日(木)

参加者数:24人

< 令和6年度内定 >

応募件数107件

特別助成事業2件、一般助成事業15件、総額700万円内定

・令和6年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS  
文化芸術振興助成金交付事業 募集説明会

期日:令和5年11月11日(土)、12日(日)

< 全体説明会 > < 個別相談会 >

参加者数:51人

文化芸術に関する調査研究事業

・調査研究

文化芸術振興助成金交付事業では、令和5年度実施分として約550万円を交付し、優れた文化芸術活動の支援に寄与した。令和6年度募集については、107件の応募から計17件を採択し700万円を内定している。

調査研究では、全国13の文化施設のほか、「国際芸術祭あいち」「岡山芸術交流」を訪問し、他都市の動向や先進的な文化芸術活等に関する調査研究を行った。

補助金交付の対象となる自主事業の実施に関する業務

hitaruオペラ・バレエプロジェクト

hitaruバレエプロジェクト「くるみ割り人形」(全幕)【再掲】

期日:令和5年12月9日(土)、10日(日)

総入場者数:5,646人

hitaruオペラプロジェクト モーツァルト作曲「フィガロの結婚」有料  
アーカイブ配信【再掲】

期日:令和5年4月28日(金)～7月27日(木)

総視聴人数:100人

hitaruオペラプロジェクト モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」【再  
掲】

関連事業

・キャストオーディション

期日:第1次審査 令和5年12月26日(火)、第2次審査 令和6年2  
月17日(土)、18日(日)

応募者数:60人

・コレペティートル研修

期日:令和6年3月23日(土)、24日(日)

受講者数:3人、総聴講者数:62人

札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付  
事業【再掲】

< 令和5年度助成金交付 >

特別助成事業1件、一般助成事業19件 総額約550万円

・令和5年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS

文化芸術振興助成金交付事業 助成金交付決定説明会・交流会

期日:令和5年4月27日(木)

参加者数:24人

< 令和6年度内定 >

応募件数107件

特別助成事業2件、一般助成事業15件、総額700万円内定

・令和6年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS

文化芸術振興助成金交付事業 募集説明会

期日:令和5年11月11日(土)、12日(日)

< 全体説明会 > < 個別相談会 >

参加者数:51人

(5)施設利用に関する業務	利用件数等				A	B	C	D
		R4年度実績	R5年度実績	前年比				
劇場	件数(件)	261	284	108.8%	<p>各施設の入場者数は前年度より大幅に増加し、総来館者数は約150万人となった。また、利用率は劇場が92.4%、クリエイティブスタジオが93.5%、スカーツが87.9%となり、劇場は開館年度を上回る稼働率となった。</p> <p>また、定例的、継続的な諸室利用者に向けた「利用者登録制度」については、令和4年7月から開始し、約200団体に登録いただいた。</p> <p>このほか、リノリウムが敷設された部屋を増室したことで、利用者から好評の声をいただいた。その他の諸室においても備品のレイアウト変更を行い利用者の利便性向上を図った。</p>	<p>来館者数は全体的に前年度よりも大きく伸びており、稼働率も全て高水準である。また、利用者登録制度を導入するなど、利用者の利便性向上に努めている。</p> <p>以上より、本市の要求水準を超える管理運営が行われている。</p>		
	人数(人)	297,019	356,807	120.1%				
	稼働率(%)	87.7%	92.4%	105.4%				
クリエイティブスタジオ	件数(件)	302	357	118.2%				
	人数(人)	24,491	40,002	163.3%				
	稼働率(%)	86.0%	93.5%	108.7%				
練習室等	件数(件)	4,280	5,434	127.0%				
	人数(人)	34,649	54,588	157.5%				
	稼働率(%)	73.5%	85.9%	116.9%				
センター	件数(件)	2,436	2,958	121.4%				
	人数(人)	124,940	247,294	197.9%				
	稼働率(%)	76.9%	87.9%	114.3%				
総来館者数(人)		1,196,687	1,523,758	127.3%				
<p>不承認 0件、取消し 51件、減免 2,467件、還付80件</p> <p>利用促進の取組</p> <p>一斉受付実施の告知</p> <p>ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。</p> <p>利用者からのご要望の改善</p> <p>利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。</p> <p>利用者登録制度の導入</p> <p>定例的、継続的な諸室利用者がよりスムーズな申請手続きを行えるよう、利用者登録制度を導入し、登録者は申請から施設利用料の支払までを同時に行えるようにした。</p> <p>劇場公演鑑賞の利便性向上</p> <p>劇場公演の鑑賞時にお子さまを対象として貸出しているキッズクッションについて、50個を追加購入して計100個の所持数とし、より多くのお子さまにご利用いただけるよう利便性向上を図った。</p>								

(6)付随業務	<p>広報業務</p> <p>広報</p> <p>広報誌作成と事業広報との連携強化 公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、広報誌等の印刷物やウェブサイト、SNS等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。</p> <p>(1)広報誌「wave times*」 令和4年度まで発行していた情報誌「WAVE TIMES」、イベントスケジュール誌「PLAS」を1誌に統合し、新たに「wave times*」(年6回発行)としてリニューアルした。広報誌は区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。加えて、リニューアルを機にWEBでの情報発信を強化するためにWEBマガジン版も新たに作成し、で公開した。リニューアル後に連載を開始した「アートって楽しい!」では札幌市芸術文化財団が指定管理を行う6施設を紹介し、市民交流プラザ以外の施設での事業についても積極的に広報を行った。</p> <p>(2)地下鉄パンフレット広告 主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて、広報誌「wave times*」を配架した。</p> <p>(3)協賛広告枠の活用 札幌文化芸術劇場hitaruオフィシャルスポンサー企業の広告協賛枠等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及び地下街オーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。また、市民交流プラザの認知度、並びにアクセスについての情報を広く周知するため、15秒の広告動画をさっぽろ地下街の「AUMIRUビジョン」「HILOSHIビジョン」の2ヵ所で上映した。</p> <p>ホームページ、SNSなどを活用した広報 ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語・中国語(簡体字、繁体字)・韓国語に対応した翻訳ツールを導入し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。 また、X、Facebook、InstagramといったSNSも活用し、即時性のある情報を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式ホームページアクセス数 令和5年度:1,544,776件 (参考)令和4年度:1,476,048件</li> <li>・札幌市民交流プラザメンバーズホームページアクセス数 令和5年度:140,191件 (参考)令和4年度:159,290件</li> </ul> <th data-bbox="1101 152 1321 1653" rowspan="2"> <p>施設入館者目標数の年間120万人を達成した(令和5年度実績152万3,758人)。「wave times*」の発行、WEBマガジンの配信、ホームページやSNSの活用、各種パブリシティでの広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進につなげた。また、広報誌では財団内連携として、当財団が管理する6施設を紹介することで、各施設・事業のPRに努めた他、「創成おさんぼMAP」を発行することで施設近隣地域の活性化を図った。</p> <th data-bbox="1324 152 1468 1653"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。</p> </th></th>	<p>施設入館者目標数の年間120万人を達成した(令和5年度実績152万3,758人)。「wave times*」の発行、WEBマガジンの配信、ホームページやSNSの活用、各種パブリシティでの広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進につなげた。また、広報誌では財団内連携として、当財団が管理する6施設を紹介することで、各施設・事業のPRに努めた他、「創成おさんぼMAP」を発行することで施設近隣地域の活性化を図った。</p> <th data-bbox="1324 152 1468 1653"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。</p> </th>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。</p>	A	B	C	D				
			A	B	C	D					

## メディア対応とプレスリリース

市民交流プラザについての取材依頼、パブリシティ掲載などに対応し、市民交流プラザの認知度を高めるとともに、市民交流プラザ全体で行われる事業や共催事業などのプレスリリースを行い、周知やチケット販売促進につなげた。

## その他の広報制作物

## (1)「創成おさんぼMAP」

近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子を作成し、メンバーズ(DM会員)に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。また、利用促進のため、秋にはSNSを活用した「#おさんぼMAPキャンペーン」を実施した。

## (2)「ホテルグルメ特集」

「創成おさんぼMAP」に掲載のホテルについて、メンバーズ会員証の提示で受けられる特典をまとめた「ホテルグルメ特集」を年3回発行し、メンバーズ(DM会員)に送付し、館内各所に配架したほか、メンバーズ(WEB会員)にはピックアップ情報として定期的にメールマガジンにて発信した。

## 利用促進

## 施設利用に関するチラシの配架

札幌文化芸術劇場hitaru及び札幌文化芸術交流センター SCARTS 諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方いろいろ」を配布して会議や練習での利用を促した。

## 会員制度

## (1)会員制度の募集及び運営

主催公演のチケット先行発売や公演情報の提供などを特典とする会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を運営。令和6年3月31日までにWEB会員48,933人、DM会員633人、計49,566人の会員を集めた。

(参考)令和4年度:WEB会員42,690人、DM会員691人、計43,381人

## (2)会員特典

- ・メールマガジン配信(WEB会員向け、原則1ヶ月に2回)
- ・ダイレクトメール送付(DM会員向け、原則奇数月)
- ・hitaru主催公演のチケット先行発売
- ・プラザ内カフェ・レストランでの優待
- ・近隣のホテル・飲食店等での各種優待
- ・避難訓練コンサートへの参加(メンバーズ限定)

## 協賛制度の募集及び運営

札幌文化芸術劇場hitaruの主催共催事業の充実を目的とする

「hitaruオフィシャルスポンサー」制度を運営。

令和5年度のスポンサーとして、法人103社、個人52人、計155件(8,708万円及び広告枠)の協賛を獲得した。

## 引継ぎ業務

(前回から継続指定のため、引継ぎ業務なし)

利用促進チラシの配布や会員向け特典を充実させるなど、安全な施設利用の促進に取り組んだ。

また、hitaruオフィシャルスポンサーである株式会社ニトリの特別協賛で「青少年向けバレエ鑑賞事業」を開催するなど、子どもたちが上質な芸術文化に触れることのできる機会を創出した。

2 自主事業その他		A	B	C	D							
<p><b>自主事業</b></p> <p>施設の賑わいの創出とともに寛ぎの空間を提供することを目的に、カフェ「MORIHICO.芸術劇場」及びレストラン「DAFNE」を営業。また、自動販売機を館内に7台設置している。</p> <p>レストラン「DAFNE」にて、クリスマスメニューやお節の販売、創世スクエアオフィス棟の企業へのフライヤーポスティング、45分間で楽しめるランチメニュー「ブラド45」の提供などを前年度より継続し、利用者のニーズに対応した営業を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、営業時間の延長や、完全予約制としていたレストラン「DAFNE」のディナー営業にフリーオープン日をつけることで、より多くの来館者へご利用頂けるよう努めた。</p> <p>施設と各委託事業者の月例会議（CS会議）に代表者1名が出席することとし、劇場・クリエイティブスタジオの公演情報（来場見込み等）を事前に共有することで、カフェ・レストランともに無駄のない営業に務めた。</p> <p>市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>市内企業等の活用 施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。</p> <p>福祉施策への配慮 避難誘導ペーパーの印刷作業や主催事業に係るちらしの封入作業を市内の福祉施設に発注したことに加え、設置している自動販売機のうち1台を、市内の社会福祉団体に依頼した。</p>		<p>施設との連携強化を図りながら、ニーズに対応し、効率的な営業を行うことができた。</p> <p>今後も、より店舗の認知度を高め、施設の賑わいの創出に努めたい。</p> <p>再委託業務について市内企業への発注を行うなど、市内企業の活用に努めた。</p> <p>また、福祉施設・団体への発注を行い、福祉施策の推進に努めた。</p>		<p>カフェ・レストランについては一定の集客により、賑わい創出に貢献している。また、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>								
<p><b>3 利用者の満足度</b></p> <p>利用者アンケートの結果</p> <table border="1"> <tr> <td>実施方法</td> <td>施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。</td> </tr> <tr> <td>結果概要</td> <td>貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は94.4%、職員対応の満足度は95.9%であった（「満足」「おおむね満足」「普通」合計）。また、貸館利用者の96.9%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数：7,916件</td> </tr> <tr> <td>利用者からの意見・要望とその対応</td> <td>・予約申し込みのネット化希望 現在ネット予約実現に向け、新システムの開発準備を行っている。 ・電話での仮予約ができると良い ・劇場の貸出キーの専用ボックスがあるといい 劇場のキー（16本）をまとめて収納できる貸出用キーボックスを作成した。 ・いつも綺麗な施設で使いやすいです。</td> </tr> </table>		実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。	結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は94.4%、職員対応の満足度は95.9%であった（「満足」「おおむね満足」「普通」合計）。また、貸館利用者の96.9%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数：7,916件	利用者からの意見・要望とその対応	・予約申し込みのネット化希望 現在ネット予約実現に向け、新システムの開発準備を行っている。 ・電話での仮予約ができると良い ・劇場の貸出キーの専用ボックスがあるといい 劇場のキー（16本）をまとめて収納できる貸出用キーボックスを作成した。 ・いつも綺麗な施設で使いやすいです。	<p>市民のニーズを踏まえた施設運営を実施するため行っている利用者アンケートについては、施設利用者の増加回復に伴い、アンケート回収数が大幅に増加した。</p> <p>お客様からのご意見・ご要望をデータベース化し、職員や委託事業者へ共有することにより、今後の対応に活かすことができた。</p>		<p>「総合満足度」及び「職員の接遇に関する満足度」は、本市の要求水準である80%を大きく超えている。また、アンケートで寄せられた意見に対する改善も行っており、本市の要求水準を満たしている。</p>		
実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。											
結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は94.4%、職員対応の満足度は95.9%であった（「満足」「おおむね満足」「普通」合計）。また、貸館利用者の96.9%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数：7,916件											
利用者からの意見・要望とその対応	・予約申し込みのネット化希望 現在ネット予約実現に向け、新システムの開発準備を行っている。 ・電話での仮予約ができると良い ・劇場の貸出キーの専用ボックスがあるといい 劇場のキー（16本）をまとめて収納できる貸出用キーボックスを作成した。 ・いつも綺麗な施設で使いやすいです。											

4 収支状況				新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、当初計画より貸館稼働率が上昇し、利用料金収入が大幅に増加した。 支出については、施設運営・事業運営の経費削減等を実施し、収益の減少幅を補うことに努めた。	A	B	C	D
収支	(千円)							
項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)					
収入	1,457,863	1,548,033	90,170	各事業における経費削減に努めたことで、当初計画に比べ支出が抑制され、純利益が増加したことは評価できる。今後も、安定的な施設運営に努められたい。				
指定管理業務収入	1,394,276	1,462,274	67,998					
指定管理費	1,031,145	1,036,382	5,237					
利用料金	227,271	260,825	33,554					
その他	135,860	165,067	29,207					
自主事業収入	63,587	85,759	22,172					
支出	1,538,207	1,477,014	61,193					
指定管理業務支出	1,425,564	1,383,370	42,194					
自主事業支出	112,643	93,644	18,999					
収入-支出	80,344	71,019	151,363					
利益還元			0					
法人税等			0					
純利益	-80,344	71,019	151,363					

説明

指定管理費について  
 今期は、令和5年4月から令和6年3月までの期間における、光熱費高騰分の補填を受けたことにより増収となった。

収入について  
 主催事業の入場料収入が堅調であったことに加え、他施設の休館の影響を受けて貸室の稼働率が上昇し、利用料金収入が想定より大幅に増加した。  
 また、舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)の採択により、収入が大幅に増加した。

支出について  
 主催事業に係る舞台セット等の支出が想定よりも増加したが、各事業に要する経費の削減に努め、全体的として計画よりも支出を抑えることができた。

< 確認項目 > 評価項目ではありません。		
安定経営能力の維持 当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。		適 不適
個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。 情報公開請求はなかった。 オンブズマンについては、案件は生じなかった。 暴力団関係については、案件は生じなかった。		適 不適

## 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【管理運営事業】</p> <p>利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持・推進することにより、管理運営を徹底することができた。</p> <p>施設運営においては、新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、すべての貸館施設で稼働率が上がり、劇場については過去最大の利用率92.4%を達成、利用者数についても150万人を突破、施設や事業における広報・宣伝活動を積極的に行うことにより、目標値を上回る稼働率で終えることができた。</p> <p>また、貸館事業においては、利用者の貸館申込手続き省力化の取組を実施し、利用者の利便性・稼働率向上に務めた。</p> <p>人員を増員し、安定した施設運営を実施することができ、大きな手ごたえとなった。</p> <p>また、主催・共催事業と貸館とのバランスにも十分配慮し、利用収入も着実に確保し、黒字を達成した。</p>	<p>【管理運営事業】</p> <p>引き続き安定的な施設運営を目指しつつ、職員のスキルアップを図るなど、運営水準のさらなる向上を図り、状況の変化に即して適切に対応できる運営を行っていく。</p> <p>また、これまで以上に施設や事業の広報活動を行うことで、稼働率や来館者数の目標値を上回ることを目指していく。</p> <p>そのほか、施設管理においては開館6年目となるため、設備や備品の修繕の増加が考えられるが、定期点検を実施することで、施設内設備全般の機能を長期にわたり良好に維持管理できるよう努めていく。</p>
<p>【主催事業】</p> <p>・札幌文化芸術劇場</p> <p>多面舞台と最新の舞台機能を生かしたクオリティの高い舞台芸術に親しむ場を市民に提供し、文化芸術に関心をもっていただくよう多彩な事業を実施した。令和5年度は、令和4年度開催のhitaruオペラプロジェクト第1回公演に続き、地元バレエ団体、実演芸術家やスタッフの力を結集した「hitaruバレエプロジェクト」を開催した。第1回公演として、劇場独自のプロダクションによる『くるみ割り人形』を上演し、約1年の準備期間においては、地元ダンサー及び若手指導者層の育成、パリ・オペラ座との連携、制作スタッフのスキルアップ研修、ファンを増やすための普及事業の実施など多層的な事業展開に努めた。</p> <p>また、新国立劇場オペラ「サロメ」、東京二期会・シュトゥットガルト州立歌劇場との連携によるオペラ「ドン・カルロ」を上演し、市民に本格的なグランド・オペラの鑑賞機会を提供することができた。さらに、低廉な価格で様々なジャンルの公演を楽しめる「hitaruのひとつき」シリーズ、第一線で活躍する映画監督によるレクチャーイベント、日本演劇界を代表する演出家の一人である平田オリザ氏主宰の演劇公演、hitaruのセルフプロデュース企画「Creative Art Mix」など広範なジャンルの文化芸術を市民が享受する機会を創出した。劇場独自企画による事業では地元アーティストに参加してもらい、アーティスト同士の交流や研鑽の場を設けるとともに、地元で活躍するアーティストたちの魅力を市民に紹介することができた。劇場に足を運んでの鑑賞に加え、市内中学2年生を対象としたバレエの配信鑑賞、主催事業の有料アーカイブ配信、主催事業に関するレクチャー動画の公開など、オンラインコンテンツの拡充にも積極的に取り組んだ。</p> <p>事業運営に関しては、助成金の獲得(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)、SNSを活用した若年層への広報の強化、制作スタッフの育成(地域創造ステージラボへの参加、事業視察等)、DX導入による業務効率化(会議資料のペーパーレス化、AIによるアイデアジェネレーション、議事録作成等)に取り組んだ。</p> <p>主催事業の来場者満足度は92.5%(令和5年度11事業平均)と非常に高い結果となった。</p>	<p>【主催事業】</p> <p>・札幌文化芸術劇場</p> <p>これまで札幌では招聘が困難であった大規模なオペラやバレエ公演などの鑑賞機会を引き続き提供していくとともに、令和6年度においては、創造型劇場の取組をさらに推進するため、市内で活動する音楽家、実演芸術団体、芸術系大学、舞台技術者と共に北海道・札幌発の実演芸術を創造する「hitaruオペラプロジェクト」の第2回公演として「ドン・ジョヴァンニ」を上演する。第1回公演に引き続き、鑑賞の裾野を広げる関連事業の実施、プロジェクトを支える人材の育成や持続可能な体制づくり、新たな観客を獲得するためのプロモーションも含め、関係各所と緊密に連携しプロジェクトを推進していく。また、令和7年度開催予定の第2回hitaruバレエプロジェクトの準備も並行して進めていく。</p> <p>上記創造事業に加え、バレエ、オペラ、舞踏、演劇他、質の高い多様なコンテンツの事業やそれにとまなう関連事業を継続して展開することで、市民が舞台芸術と出会い、興味関心を深める機会を創出していく。</p> <p>なお、次世代を担う青少年(中学2年生)を対象としたバレエ鑑賞事業については、豊かな感性を育む事業として引き続き実施するとともに、大学等との連携により舞台芸術を支える様々な分野の人材育成にも注力していく。</p> <p>また、令和5年度から我が国を代表する施設の一つとして評価を受け採択された文化庁の助成金「舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)」について、令和6年度も引き続き採択されている。助成金要望時にビジョンとして掲げた次世代創造型劇場を目指し、主催事業においても引き続き創造力・企画力・発信力などをさらに高めるべく研鑽を積み、実演芸術の拠点としての役割を担っていく。</p>

<p>・札幌文化芸術交流センター 「アートを介し、ひと・もの・ことをつなぐ」というミッションに基づき、札幌のアートセンターとして「文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業」と「文化芸術活動支援事業」の2本の柱に沿って様々な事業を展開した。各事業の実施において、様々な文化芸術活動や分野・団体等をつなぐ役割を果たすとともに、札幌の文化芸術振興に貢献することができた。</p> <p>「文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業」では、札幌国際芸術祭(SIAF)の会場の一つとして、市内各会場を繋ぐハブとなるビジターセンターとしての役割を果たした。</p> <p>その他、北海道大学CoSTEPと協働したメディアアーツシリーズ、連携協定を結ぶ北海道教育大学・札幌大谷大学、札幌で活動を続けるさっぽろ天神山アートスタジオや札幌文化団体協議会など、幅広い団体との連携事業等により、質の高い芸術鑑賞機会を広く市民に提供するだけでなく、次世代を担う人材の育成や他分野との連携等、札幌のひと・もの・ことを結びつけ牽引する「クリエイションハブ」としての役割を果たすことができた。</p> <p>「文化芸術活動支援事業」であるサポート事業では、公募により採択された文化芸術団体やアーティストによる企画を共同で実施する企画公募事業により、文化芸術の創造と表現の場を提供・支援することができた。また、相談サービスでは前年度のおよそ倍の相談件数となり、札幌で活動する方々の課題解決の一助となる事業として、認知度の向上とともに、着実に実績を積み重ねていることを実感できた。助成金交付事業では、20件の質の高い文化芸術活動に対し、活動費用の一部を支援することにより、札幌市の文化芸術の振興と発展に寄与することができた。</p>	<p>・札幌文化芸術交流センター 令和6年度のメディアアーツシリーズでは引き続き北海道大学CoSTEPや市教委と連携し、高校生及び大学生を対象としたプログラムを実施する。また、経済産業分野との連携事業としてNoMapsを開催するほか、札幌文化団体協議会による地元の文化芸術団体による作品発表、市内各所で開催する札幌アートの会場の一つとして、アーティストと子どもたちのコラボレーションによる「キッズアートフェス」も開催する。</p> <p>パブリックリレーションズについては、プラザの開館日を全館で祝うプラザフェスティバルにおいてアートセンターに関するシンポジウムを開催し、SCARTSが目指すべきアートセンターの形について、ゲストとの対話によって考える機会とする。</p> <p>サポート事業については、相談サービスや助成金交付事業で寄せられることが多い、助成金に関する内容をラーニングプログラムとして実施したり、通常の相談サービスとは別に個別相談会の機会を設けるなど、各事業と関連付けていくことで、より重層かつ伴走型の支援形式の構築を目指していく。</p>
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営が行われている。</p> <p>hitaruバレープロジェクトについては、道内の人材を活用し、地元アーティスト等の活躍の場を創出するとともに、親しみやすい有名演目とすることで幅広い市民へ舞台芸術鑑賞機会を提供する大変意義深い取組と言える。Creative Art Mixにおいては、ジャンルを超えたアートのコラボレーション事業を実施し、市民に新鮮な芸術鑑賞機会を提供している。また、中学生の公演招待や大学との連携等、若年層向けの取組を手厚く実施しており、文化芸術の裾野拡大に繋がっている。</p> <p>加えて、貸館についても押し並べて高稼働率であり、利用団体や市民に親しまれる施設となっている。今後も本市の文化芸術の拠点としての役割を果たし、文化芸術の発展に寄与していくことが期待される。</p>	<p>貸館運営においては利用者の声を参考に、より利用しやすい施設となるよう、常に対応改善を検討されたい。また、経営面においては、引き続き経費削減、効率的な運営に努めること。事業実施においては必要経費や職員の業務負担も考慮し、随時事業の見直しを行い、効率的かつ効果的な事業体系の構築に努められたい。</p>